



# 『大塩地区』をたずねて

大塩町は姫路城の南東端に位置し、東は天川と日笠山で高砂市と接している。国道250号線と山陽電車が町の中央部を東西に通じ、南部一帯は戦後に三度も大きく変貌した。見慣れた入浜式塩田から流下式塩田へ、そして今、広大な塩田跡地に開発の手が進められている。

地名は、古くは汐崎のちには塩崎と称した。鎌倉時代より「大塩荘」の名がみえ、室町時代中期には「大塩村」の存在が確認できる。江戸時代は姫路藩領となり、藩内一の製塩地となった。明治22年(1889)から印南郡大塩村、大正15年(1926)から大塩町、昭和34年(1959)5月1日、姫路市に合併した。



大塩塩田図(寛政12年) 姫路市立城内図書館蔵

## ①大塩天満宮

大塩町4地区・別所町小林のほか高砂市北浜町も含めた氏神。主祭神は菅原道真、創建は天神山説、伊屋明神説があるが、室町時代の「天文二年三月、大塩次郎崇祠す」(『播磨鑑』)がよく知られる。社殿は江戸時代の遷宮を経て、平成10年(1998)9月に現在地に移転した。例祭は10月14・15日、8頭の毛獅子による道中舞と地舞が演じられる勇壮な獅子舞(県指定無形民俗文化財)と絢爛豪華な舞台6台の練り合わせで、播磨地方では有数の祭礼である。



大塩天満宮



秋祭りの獅子舞

## ②梶原家住宅(屋号：鍵屋 通称：西梶原 非公開)

山本家と共に大塩を代表する旧塩田主の住宅。6,600㎡(約2,000坪)の宅地に、幕末の嘉永6年(1853)に建てられた主家を中心に20の建物が建っている。明治・大正・昭和に増改築され、規模が大きく重厚な外観をもち、また一方で裏千家茶室の写しの茶室や待合など、多くの数寄屋建築が残されている。

平成20年(2008)3月、国登録記念物(名勝)、平成21年(2009)11月国登録建造物に登録された。



梶原家住宅(西梶原)



梶原家住宅(中西梶原)

## ③梶原家住宅(通称：中西梶原 非公開)

西梶原の新宅として大正時代に分家し陶磁器商を本業とした。主家は大正11年(1922)の建築で、多くの屋根を複雑に付設し、外壁を塗り込めるなど風格のある外観である。また土蔵は天保13年(1842)のものを大正末期に移築した白漆喰壁で、平成21年(2009)8月、主家とともに国登録建造物に登録された。



赤鹿家住宅(旧山本家住宅)

## ④赤鹿家住宅・旧山本家住宅(屋号：山寿屋 通称：前新宅 非公開)

18世紀初頭より塩田業を生業としてきた山本家主家の南前、道を挟んで建てられた分家住宅で「前新宅」と呼ばれた。近年、赤鹿不動産の所有となる。「ひょうご住宅百選」の一つに選ばれている。



**⑤山本家住宅（非公開）**

大塩の梶原家とともに手広く塩田業を営んだ山本家の主家住宅。西光寺に隣接する3,300㎡（約1,000坪）の敷地内に450㎡の木造平屋建て、本瓦葺きの家屋が建っている。正徳3年（1713）の建立と伝え、気品溢れる佇まいは旧家の暦日を偲ばせる。



山本家住宅



明泉寺

**⑥明泉寺（寺号：光沢山 浄土真宗 西本願寺派）**

室町後期まで「大養寺」と称し天台宗だったが、のちに浄土真宗に改め、江戸初期の元和7年（1621）に明泉寺となる。本尊・阿弥陀如来立像をまつる本堂は正面9間奥行き9間、壮大な庫裡とともに大塩地区最大の威容を誇る。

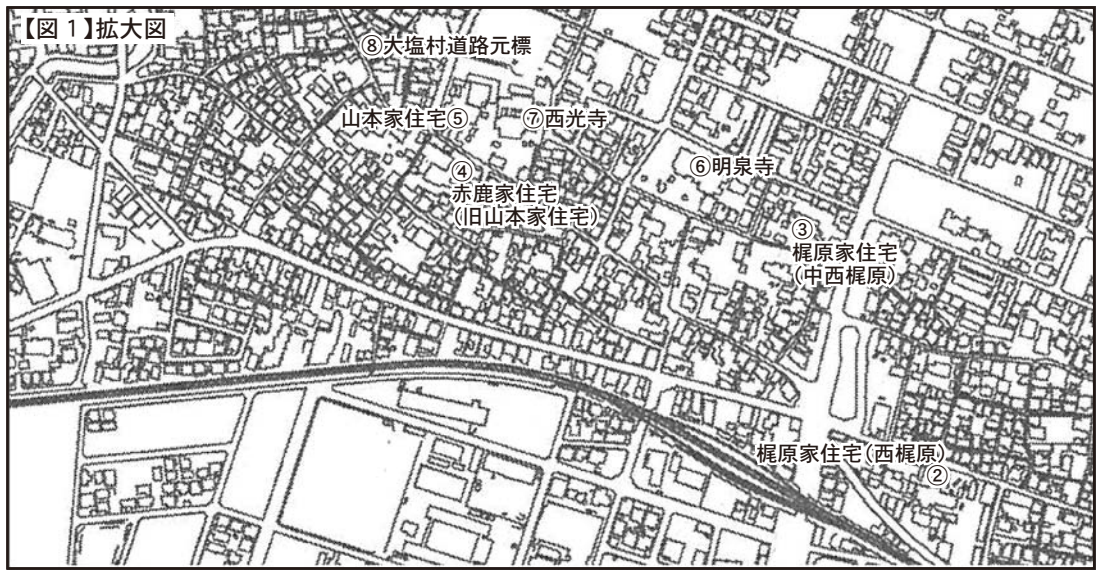


西光寺

**⑦西光寺（寺号：雲龍山 浄土宗 西山派）**

室町後期の天文18年（1549）の創建。のち天正3年（1575）に現在の山号寺号を名乗る。本尊は阿弥陀如来立像、江戸時代を通じ本堂・庫裡・山門・鐘楼が整備されてきた。廃仏毀釈で廃寺となった天満宮の神宮寺である潮照寺（天台宗）を薬師堂としてきたが、平成17年（2005）6月に建物は廃止された。





### ⑧大塩村道路元標

大正8年(1919)11月に公布された道路法によって、各市町村に1個設置された標石。大塩から姫路までの距離を表す場合、大塩の起点はこの元標のあるこの場所であるから、ここから測って表すことになる。



大塩村道路元標



大乘神社

### ⑨大乘神社

創建年代は不詳。ご祭神は天兒屋命(太詔戸命)、脇社のご祭神は事代主命。江戸時代の記録には「大乘権現」とあり、お社は「長四尺 横三尺 瓦葺 南正面」、また社地は「東西貳間 南北三間 御除地 村中持」と記している。

### ⑩大塩城跡(高砂市北浜町北脇 西法寺 浄土真宗 本願寺派)

西法寺の境内地が大塩城だと言い伝えられ、その東にある公園は当時の外濠の跡という。城主は大塩次郎景範で、嫡男景光は南北朝期の文和4年(1355)赤松則祐に従い神南合戦で武功をあげた。また戦国期の天正年間には、大塩次郎左衛門景衡とその子小六景麗が別所長治に従い、三木城に籠城した。



大塩城跡(西法寺)

### ⑪清勝寺(寺号:大梅山 臨済宗 妙心寺派)

室町初期の応永2年(1395)諸国巡行中の季明禅師が訪れ、草庵を建て仏法を説いたのが始まり。本尊は釈迦如来坐像。江戸中期の頃から本堂(正面5間半、奥行5間)・庫裡(正面4間、奥行き6間)・山門・釣鐘堂・観音堂は今も変わらない。本堂西方の墓地入口に近い五輪塔は形式から室町時代のものと思われる。



清勝寺



五輪塔

### ⑫イヤガ古墳

穴虫池横を北西に進んでいくとイヤガ池。それに沿う小道を入ると御嶽神社があり、北側にむっくりと盛り上がって石組が露出している。これは6世紀以降に多い山すそにつくられた横穴式石室の古墳である。「イヤガ」の「イヤ」は「伊屋」と書き、『播磨国神名帳』(平安末期)の印南郡の条に「伊屋明神」がみられる。



イヤガ古墳

### ⑬千葉村長頌徳碑

明治34年(1901)27歳の若さで大塩村々長になり、6年後の明治40年(1907)33歳で病没した名村長・千葉保胤<sup>やすたね</sup>氏の功績を讃える碑。



千葉村長頌徳碑



文政2年の釈迦如来坐像

### ⑭古い石仏

千葉村長頌徳碑から馬坂を少し上ると、古い石仏や層塔の残欠が集められている。また穴虫池横の墓地内には六地藏などと共に江戸期・文政2年(1819)の釈迦如来坐像がある。

### ⑮馬坂峠

大塩のじぎくの里公園から大池、穴虫池横を経て高砂市北浜町牛谷へ通じる峠道。馬坂の由来は戦国時代、近くであった合戦に倒れた馬をこの辺りに埋めたことから通行人に害をもたらず「馬の首」伝説が伝わる。この辺り一帯は県花のじぎくの群生地である。



馬坂峠

### ⑯岩神社と腰掛岩

日笠山の西麓にあり「岩さん」と呼ばれ親しまれている。ご祭神は菅原道真。菅原道真公が太宰府へ流される途中に立ち寄り、腰をかけて休息されたという石が腰掛岩である。

江戸時代の「大塩村寺社明細帳」に「天神御腰掛岩 空地 一間半四方 村中持 菅公筑紫へ御下リノ節 御腰掛ケ成レ候由申シ伝へ候」と記す。



岩神社



菅公の腰掛岩

### ⑰延命地蔵

岩神社から少し東へ、日笠山へ向かう所にまつられている。寛政9年(1797)建立。お堂前の石灯籠などは江戸後期のもの。延命地蔵は庶民の救済にあたるが、とくに幼児の延命と福利がかなう地蔵とされる。



延命地蔵

### ⑱黒岩の磨崖仏(高砂市)

日笠山(高砂市曾根町)の東麓、国道250号線の道路よりやや上がった岩肌<sup>いしむね</sup>に上下二段に区切り、上段に五仏(右から釈迦、薬師、阿弥陀、阿闍梨、大日の各如来)、下段に八仏(不動明王、文殊、普賢、地蔵、弥勒、観音、勢至、虚空の各菩薩)が刻まれている。仏教思想の死者の年忌と仏を組み合わせたもので、左端に室町期・永正2年(1505)の年号がある。

### ⑲日笠山貝塚(高砂市)

日笠山山麓の縄文時代前期～晩期の遺跡。昭和38年(1963)から3回発掘調査され、土器・石器の他、ハマグリなど貝類23種、マダイなど魚類3種、哺乳類2種、身長159cm、30～40歳の男子の人骨も出土した。



日笠山貝塚



黒岩の磨崖仏

■編集 神 榮 赴 郷 (湊神社宮司)